

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300935		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム敬愛		
所在地	岡山県津山市東一宮22 - 10		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地が新興住宅地にあり、スーパーにも徒歩圏内。ホーム周辺には小川や公園があり四季を感じながら散歩が楽しめ、春には桜の咲く公園で家族会を開き、夏に地域の納涼祭に出かけ、冬には近くの古い神社に初もうでに行く。ホームには盲導犬をリタイアしたオレゴンが利用者へのんびりと寄り添って過ごす日常がある。毎日の日課である散歩を利用者と楽しみ、余生をいたわりあい共生する微笑ましい光景がみられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年度から外部評価が隔年毎に認可されたホームの訪問調査をさせてもらった。成る程、運営推進会議は以前から周辺5地域の町内会の代表や民生委員、愛育委員、家族代表等13名の委員が登録され、津山市や包括支援センターの職員が加わって、会長が参加者の意見をうまく導き出して活発な会議にして、2ヶ月に1回確実に開催している。家族との関係づくりも積極的に進め、花見や敬愛祭りも居所に準備したり、楽しめるようにしている。地域とのつながりも運営推進会議を通じて交流を深めている。保育園との交流も出来て、行事に招待してくれるようになった。このように、敬愛祭りにも地域の方々も参加してくれるようになり、地域密着型の事業所として活動している。周辺は高級住宅街で公園も有り、利用者の散歩コースとしては絶好の立地にある。地域と共に発展しているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「やさしい心を大切に」を日々実践していけるよう、職員間で折にふれ話し合っている	A棟の職員で決めた「ありふれた日々を共に過ごす」理念は、どこの家庭にでもあるような散歩や買物と言う型で実践されており、利用者は「よう連れて行ってもらっとる」と喜ばれていた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には買い物や散歩に出かけ近所の方と挨拶を交わし、地域の行事にも参加できる利用者と職員で顔を出し交流を図っている	地域の保育園から招待されたり、運営推進会議を通じて大正琴、銭太鼓など、ボランティアグループの拡大や、勉強会や敬愛祭り等に地域の人の参加が少しずつ増えている傾向にある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や敬愛まつりなど地域の方と多く触れ合える場において、認知症について話せる機会を設けている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの活動報告や勉強会などを行う。そこでの意見はミーティングで職員全員に伝え、今後の活動に反映するよう心がけている	ホーム周辺の7つの町内会長、2人の民生委員、法律事務所、包括支援センター、利用者家族と委嘱メンバーが多く揃い、活発な意見交換や演芸ボランティア団体の紹介がある等、地域への広がりが見えている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者にはわからないことや事業所内だけでは解決できない事など相談し、アドバイスや指導を行ってもらっている	運営推進会議メンバーとして毎回出席しているので、利用者の暮らしぶりを良く理解してもらい、良い関係が保たれている。特に対応困難ケースの指導を仰ぐことが多く、助けられている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議においても身体拘束についての勉強会を開き、地域の方や職員ともに正しく理解し、拘束のないケアづくりを心がけている	利用者の外出願望には一緒に出掛け、動きを阻害しない事等、一人ひとりの傾向を掴んだ対応を行っている。禁止行為の具体例を取り上げて勉強会を行う等で職員が共通認識している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待法に関しても勉強会を行い、職員にどのようなことが虐待になり得るのか学ぶ機会を設けた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方にも運営推進会議に参加してもらい、成年後見制度について学ぶ機会をもてた		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族、利用者ともに重要事項を確認しながら説明し、その都度疑問点が無いか尋ねながら話を進めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や電話などで関係を密にし、何でも言ってもらえる関係作りを行っている。出された要望はミーティング等で話し合い希望に添えるようできるだけ努力を行っている	手書きの「敬愛だより」で利用者の日常を伝えたり、敬愛祭り、花見の行事を通して、家族と接する機会を大切に捉え、意見を聞いている。推進会議で意見や苦情を述べる場を提供している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは職員の意見を出しやすいよう2棟合同ミーティングと各棟でのミーティングを行い、職員の提案の促しを行っている	日常の悩みやご有無に関する意見は管理者へよく届いている。管理者として対応困難なことは統括責任者に伝え、調整した意見を代表者に具申するシステムラインが出来ている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己チェック表を行ったうえで、更に代表者にも評価を行ってもらい、給与や賞与に反映させている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に新人職員の頃から参加する機会を設け、仕事への意識づけを図っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症協会や近隣の研修にも参加し、他事業所の様子や活動を学ぶ機会を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前に本人と面談をし不安や要望を聞きだし生活環境の把握をし、ホームで職員と話し合い、少しでも安心できる環境を整える努力を行っている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも事前に面談を行い本人とは異なった思いを聞き、双方の思いを理解した上で、ホームで行えるサービス提供を考え家族にも意見を求めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供前にも面談を行っているので「その時」に必要なサービスが他機関の方が良いと判断すれば、紹介やアドバイスを行う		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること出来ないことを見極め、さりげないサポートを職員は心がけている。また利用者から学ぶ姿勢も忘れない		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との関係を断ち切らないよう家族には電話や手紙などで日頃の暮らしぶりを伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の中には友人に手紙を書いたり家族とともに外出の機会を設けている方もいるが、すべての利用者があてはまるとは言い難い面もある	懐かしい歌を歌ったり、柏餅を作って昔の生活を懐かしむ等の支援を行っている。家族のみならず、親しい人が気楽に訪ねて来れる為のホームの配慮も必要である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士はお互いに話を交わしたりしている。関わりが難しい利用者には職員が仲立ちをし、孤立を防いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族の要望があれば相談に乗ったり、こちらからも家族に連絡を取り近況を聞く。また、入所前に利用していたケアマネジャーとも連絡を取りあっている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いやそれまでの暮らしぶりを聞き入れ、ホームでできることを職員間で話し合い意向に沿えるように努めている。困難者には何を本人は望んでいるかを職員全体で検討し案を出し合う	入浴時や買物に出た時に一対一で世間話をする中で、同じ目線で話し合えるチャンスを活かし、十分気持に寄り添い、普段聴けない思いを引き出す等に努めている。	失語症の利用者の抵抗が多く見られた。生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、その人を把握するためのアプローチを丁寧に行って欲しい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供前の聞き取り以外にも随時知りえた情報を職員間で共有し理解を深めるよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日ごろの過ごし方を職員は注意深く観察し、少しでも変化があれば看護師に相談したり、記録にも随時残しておく		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる上で本人や家族の要望は必ず聞き、職員全員でカンファレンスを開き、今最も適した介護計画を作成するように心掛けている	各種記録物にも連動性を持たせる勉強会を行っており、又、日頃のケアの中から気付きを記録していき、介護計画書に反映させるよう努力している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの様子以外にも職員の気づきを書き込むノートを作成してみた。個別記録には食事量、水分量、排泄などもすぐにわかるよう記録する欄もある		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況によっては、ホームが対応できる範囲で代行を行ったり、家族と連絡を密にとりお互いに協力できる対応策を考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域資源の情報などを求めている。本人の地域資源の活用においては個人によって異なり、すべての利用者にはあてはまってはいない		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に受診することも可能。他にもいくつかの協力病院を持ち、そこから選択もできるよう、本人や家族に決定してもらっている	地区内4つの委員と提携を結んでおり、月2回の往診があるので、健康管理については安心感がある。かかりつけ医の受診は家族が行い、受診の際の情報提供書類の整備を行い、支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護師不在時にもいつもと様子が異なる利用者には注意を払い、経過を観察し、いつでも看護師に相談できる状態にしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には情報提供書を作成。本人の様子を電話で聞いたり、直接お見舞いに行き状態を確認、病院側にも早期退院を促している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対してはデリケートな問題であるが、早いうちから家族に意識づけをと入居時においてホームの方針を説明し、できることとできないことを理解しておいていただく。また随時必要と思われる情報も折にふれ伝えるようにしている	医療が不要な限り、出来るだけの対応を行いたい方針である。終末ケアに積極的な提携医の復活に伴い、連携を深めながら家族の要望に応えて行きたいと考えている。過去にこの医師の理解と協力により看取りを行い、家族から感謝された事例がある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員がすぐに目を通せるようにしている。消防署からも、緊急時の対応について学ぶ機会を持っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団、町内会長とも緊急連絡網をしく、年2回避難訓練を行い職員利用者に意識づけを行っている。またスプリンクラーの設置も終了している	7地区の町内会長を運営推進委員会に委嘱し、会議でも災害対策に関する協議があるため、消防団や町内会の理解と協力が得やすい所である。利用者が参加し、昼夜を想定した避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者がこれまで生きてきた人生の重みを理解し、年長者としてのプライドを損なわない言葉かけを行うよう努めている	「歯を外させてもらってもいいですか」、食後の口腔ケアでは丁寧な声掛けが行われていた。入浴、トイレ介助には羞恥心への配慮がなされているが、リビングに面したトイレ使用は特別な配慮が欲しい所である。	リビングに面したトイレは薄い暖簾だけで使用していた。ドアを閉める、又は衝立立てを併用する等で、利用者の尊厳を守りたいものです。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる利用者には、必ず本人の希望を第一に尋ねる。コミュニケーションが取りにくい方も今までの生活歴から本人の望むであろうことを職員一人一人が考えて支援できるよう指導している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあっても、決して強要しない。本人のペースで生活してもらえようことを第一に優先する。利用者から希望があれば散歩や買い物にも一緒に出かける		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択も本人の望むものを取り入れる。時に女性は化粧やマニキュア、髪を染める方もいる。外出や母の日には職員が化粧を行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みは一人ひとり異なるため職員はそれを把握しておく。何が食べたいか利用者と考えながらメニューを決めることも多い。利用者と職員とで協力しながら食事作りを行い、利用者には役割をもってもらうことが大切だと考える	訪問日の昼食は、全員で切ったり混ぜたりの作業を行った。男性利用者は器用に包丁を使い、見ているだけの女性は「この人は何でも出来る」と教えて下さった。和やかな食卓を囲ませて頂いた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は職員が情報を共有できるよう記録に残す。各人によって食べ方も異なるため、できるだけ利用者に向けた食事形態を提供している。また栄養士による勉強会も行った		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさない。ひとりできない方には職員が手伝う。しかし強制的に行うのではなく、本人が嫌がれば無理強いせず次の機会を待つ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ひとりひとりの行動パターンを理解して、定時随時トイレ誘導を行うことで、少しづつではあるが失禁が少なくなっている	定時の声掛けと仕草から察し、誘導で殆んど失敗が少ない現状を鑑み、好季節に向けて、オムツ外しをを目指そうとの案も出ている。“外そう”を合言葉に、失禁体操に取り組んでみるのも一策ではないか。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前は定期的の下剤など服用していたが、野菜を多く摂取するような食事作りを心がけるようになってから、少しづつではあるが自然排便への促しもできている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝からお風呂は用意しており、毎日入浴可能。危険防止の為、職員が多い時間帯での入浴となるので、入浴時間がいつも利用者の希望に添えるとは限らない	毎日入浴可能がこのホームの売りであり、家族から喜ばれている。6割程度の利用にとどまる日もあるが、入浴時の一对一の関わりを大切に考えており、利用者はゆっくりと楽しめている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のためできるだけ日中は活動の時間を設けるが、高齢の利用者もおられるので無理強いはいしない。本人希望で居室での昼寝も可能。眠前薬服用の方も医師や薬剤師に相談し必要最低限にしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明は個人ファイルに閉じてあり、いつでも最新の情報が入手できるようにしている。臨時薬が処方された場合は、特に記録に残し申し送り必ず伝達し、様子観察に努める		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性には負担にならない程度に家事を行っていただくことが多い。男性も時に将棋を打ったり、外出が好きな方はドライブに出て好きなものを買ったりと気分転換をはかっている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿い、散歩や買い物に日常的に出かけている。月1回の利用者全員での外出には季節に合わせた場所を選んで、その時々空気味わってもらえるように心掛けている	行事委員会の企画による温泉巡りや外食等、月一回は全員で楽しんでいる。業者の送迎バスを利用して、少し遠出の外食兼小旅行も冒険してみたいと話合っている。散歩と買物は日常的な楽しみである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで金銭管理をしているが、本人の希望に応じていつでも使用できる状態にしている。家族の了解を得て小額を所持している利用者もいる		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者は自由に電話をかけられる。手紙も同様で、本人が希望すれば代筆も行う		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の整理、清潔は心がけている。建物自体が現代風なため昔は懐古しづらいところもあるが、季節に合った飾りを施し、四季を感じてもらえるよう配慮している	リビングが狭い為、掲示物は季節感ある作品を必要最小限にとどめ、落ち着いた雰囲気大切にしている。天窓からの柔らかい日差しと、盲導犬オレゴンが時折利用者の間を一巡して利用者也癒している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内の共用空間には居間兼食堂しかないため、狭く感じられるが、ソファの置き方を工夫したり、パーテーションを取り入れたり、利用者が落ち着ける居場所づくりを考えている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には入居時より本人が慣れ親しんだ家具を持ちこんでもらうよう話をするが、出来ない家庭もある。その時は職員でできる範囲で居心地よく過ごしてもらえるような居室づくりを考えてみる	好みにより、ベッドと畳の間が選べる。家族の写真や自分の作品を壁に貼る等、職員の手を借りて、落ち着いた暖かい部屋づくりが出来ていた。清潔と安全性も保たれる配慮がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し整理整頓を心がけている。不用意なものを置いたり、自立を妨げる家具配置にしないよう気をつけている		